特 7
5
158
伊藤大八郎記

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

伊藤萬太郎記

特7-158

西遊旅譚巻之四

十一月十四日長崎を發(タツ)して三里時津(トキツ)に至る十五日朝船よりノリ氣候雨降(アメフ)り出(イダ)して又小串(コグシ)といふる小島(コジマ)より大串(オホグシ)島有(アリ)船よりも出海岸(カイガン)を行(ユク)去(サル)時岩石雲母(ガンセキウンモ)ありて大風雨(フウウ)ふり出(イダ)して船(フネ)も十六日(ジフロクニチ)已(スデ)の刻(コク)比(コロ)船(フネ)を出(イダ)して六里(ロクリ)を走(ハシ)る平戸領針尾瀬戸(ヒラトリヤウハリヲノセト)は右(ミギ)は大村領左(ヒダリ)は平戸領(ヒラトリヤウ)うら地(ジ)の辨天沖(ベンテンオキ)の海(ウミ)を行(ユク)半里程(ハンリホド)の中(ウチ)山入組(イリクミ)鼈甲(ベツカフ)の如(ゴト)く潮岸岩(ウシホガンガン)に觸(フレ)船(フネ)を誤(アヤマ)り乗入(ノリイレ)船忽(フネタチマチ)沈(シヅ)むと又海底(カイテイ)岩石(ガンセキ)抜出(ヌキイヅ)る雲珠捲(ウズマキ)

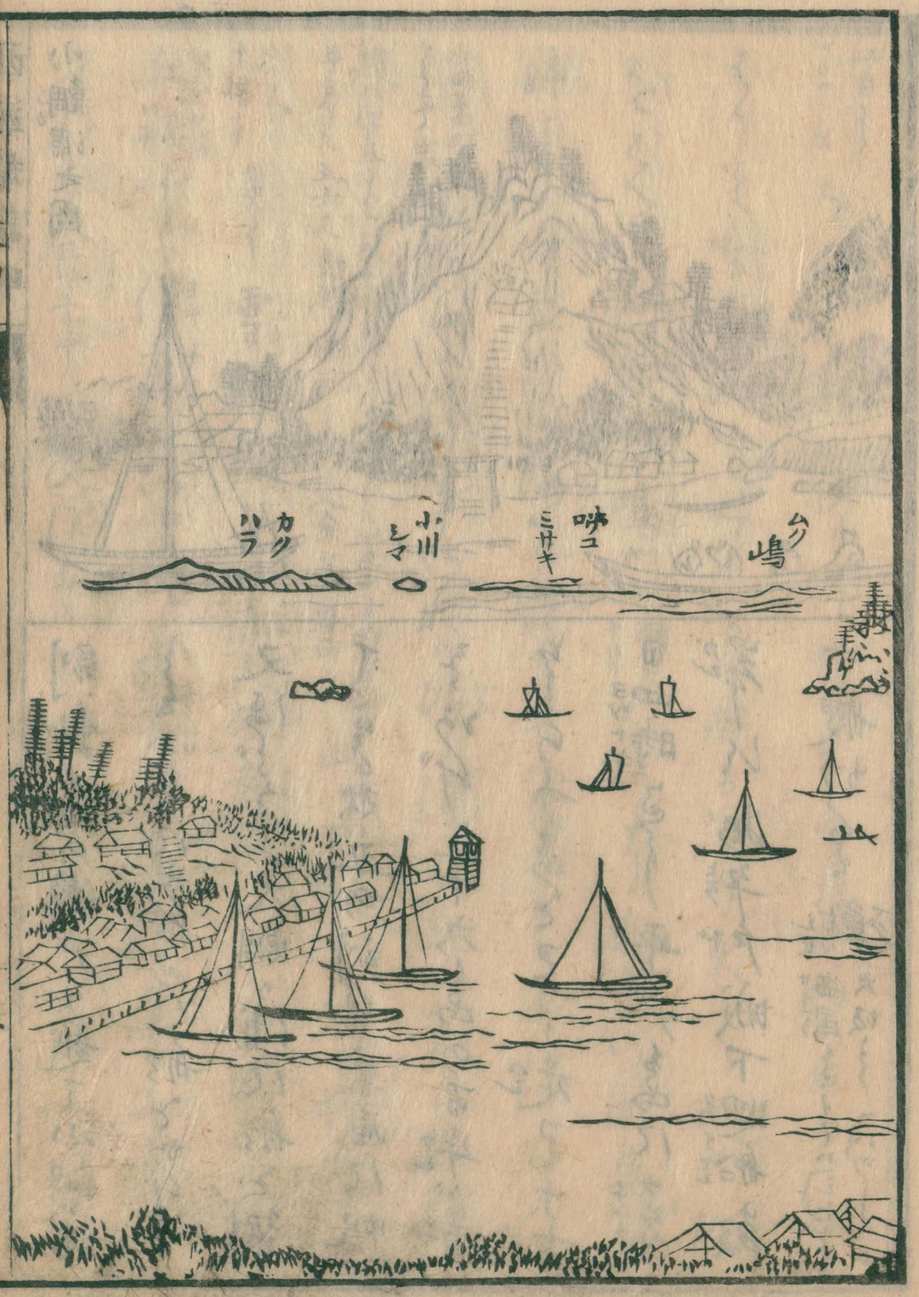
国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158　ガラス使用

扨ハ白波(トン)丈(ジョウ)で沸湯(ホットウ)
のめり湖水(ウミ)(ミチ)湯(ユ)をわき
宗(ムネ)干湖(ヒシマ)に乗(ノラズ)

向ふハ長崎の方(カタ)

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158　ガラス使用

平戸城下
勝尾山ヨリ
眺望ノ圖



国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

小鯛浦之図

則針尾の瀬戸を越て小鯛が浦
ゟ小島に七時ころに船をかける
又ほどなく大鯛が浦に船を留
て午後丑の刻ゟ東風に帆
をあげ九十九島の百牛が首
をうしろに走ること十七
日四時ころより平戸島に
岸ゟ海上平戸城下迄船数
十艘かゝる 有西国ゟ大坂へ
ゟ

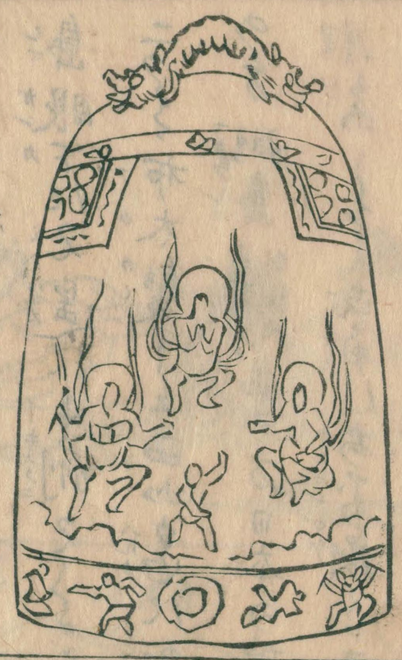
江戸へ
ゟ
を積て船出
して玄界灘
をこえて阿波ノ鳴門
浦ゟ伊豆の東海を経て七八日ゟして江戸に着
小田原町
ゟ東ハ
又船中滞留事
鮪ハ伊豆ゟ秋ゟ冬迄ゟ
平ゟ
五六尺
ゟ
ダイコ
十倍ナリ
多雪霜稀ゟ赤大根赤蕪
土瓶
此ゟ西嫁玉ゟ橙ザボン
いづれも食事四度に
ゟ

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

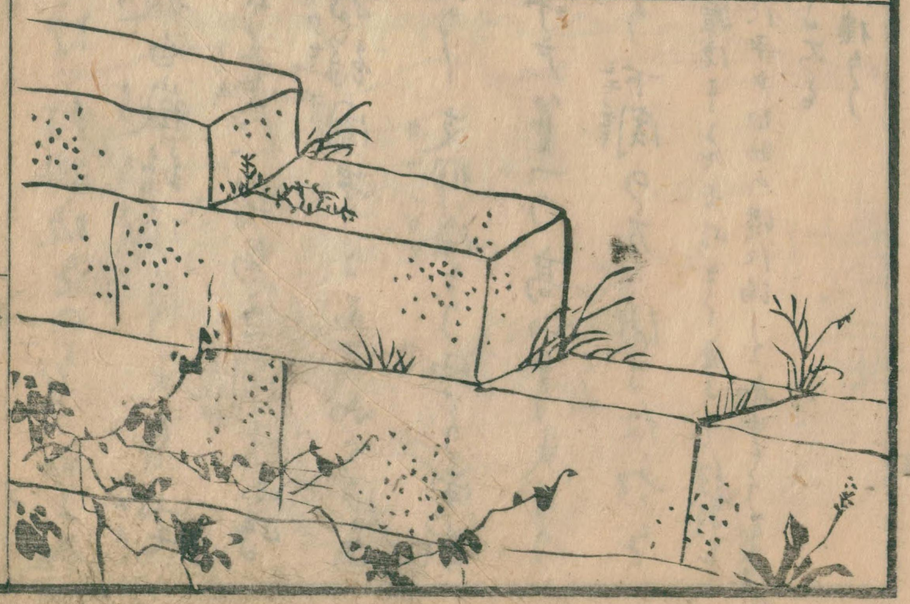
平戸城下観音院の地内鐘ノ支那ノ
奥に支那物にて播州尾上の鐘と同物ノ
銘ある堂ノ小松重盛の銘また又阿部ノ宗任ノ嫁ノ
昔ノ和蘭又イギリスノ此島に船ノ
園の屏今ノ石を築キ南蛮を楽ノ市街ノ
搗石を吹ノ作ノ事長崎のごとし
ジ寺の開基支那僧ノ作ノ今ノ西洋の人
塔家にのび鉄筆揭ノ作ノ十月廿三日冬ノ今ノ
観音院地内鐘之図

阿蘭陀墻

聖護院御願所平戸島観音院
奉施入鐘一口應永十二年未
十二月日ノ彫ノ



天人樂器を鋳ノ



平戸城下より一里北の方白山嶽より山ゝ入
紫ゝて柚る馬乃牧を放白嶽絶頂より大島宅
島眼下に見遥に壱州そるゝ
二つゝ布太髪ゝゝ西北に対馬を間ゝ峰
の方斑島唐津乃領地や西の方日本の地より支那海より南壱
月島ゝゝて平戸第一の高山ゝ夫より
嶽をより田助浦へ入ゝ下関の方へ渡るた船を
かけの港ゝ方濟日本房州に漂流をゝ
一軸ゝ図ゝ巻中に平戸田助の港に泊ゝ船中ゝ
の図ゝ余摸寫ゝゝ入ゝ余の図ゝ
山ゝゝ眺ゝ景ゝゝ図中にゝ画くものゝ頽構ゝ

薄香浦之圖

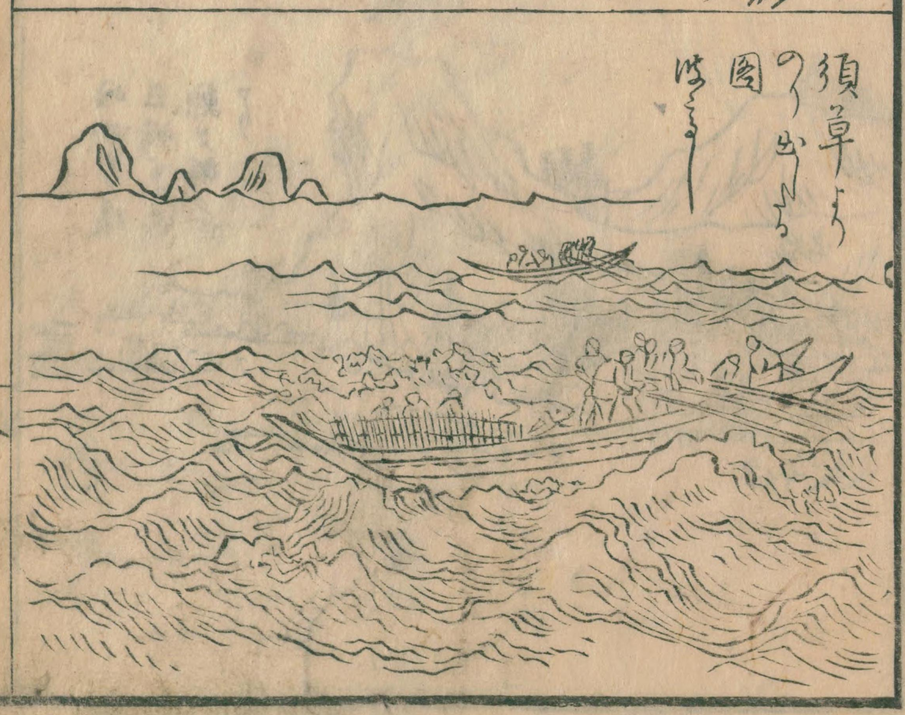
平戸城下ヨリ一里
是ヨリ生月島へ
渡ル海上三里

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

十二月四日朝風ひろ城下より一里山を越薄香浦に到り此浦より舟を出し舟人五人ろろ櫓を押して陸に須草といふあるみを入此所鮪納屋一軒ありて余人家なし又鮪漁ろ為に滞留する事凡そ二十日ばかり

須草
此あい城下の後田助の腸也



須草より圖

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

生月島之圖 亘三里

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

五日四時ごろ狹(ヤ)ノ峻頂(タケ)にのぼる此田夫の家ひろき石と圍(カコ)て製(ツク)りて舍(イエ)を作る廿町登りて絶頂ふもと廬(イホリ)にて見る處人の口一年兩三度にあるも西の方暮色國とそうろう即支那(カラ)の地し

ヤ、狹子(ガダケ)山嶽ニ登(ノボル)山中小童(コドモ)来ル圖ノ如し

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

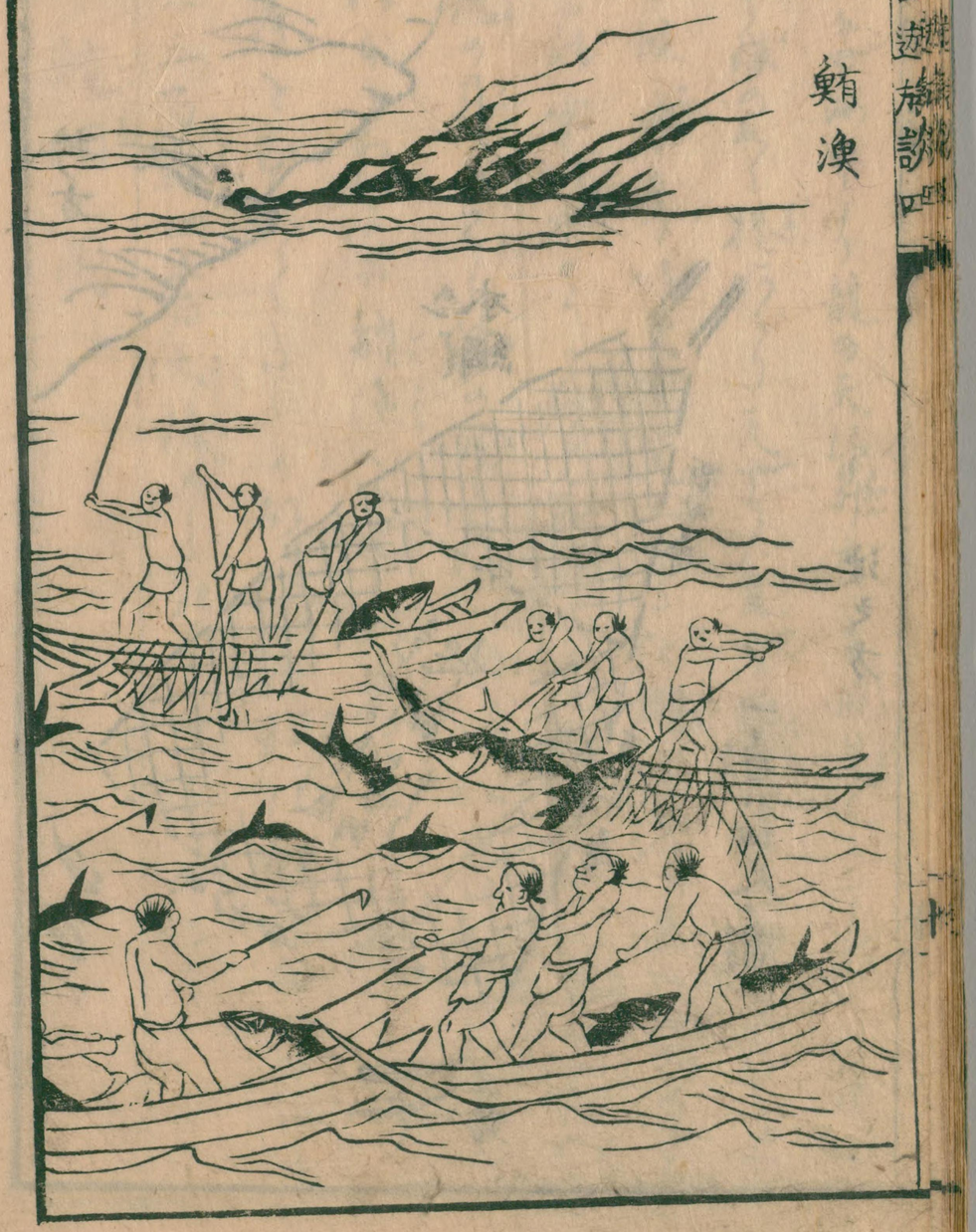
此ノ海中より龍の天に昇(ボル)事を龍昇(リウノボル)んとする前(マヘ)ハ必ず珠(ズ)のごとき捲(マキ)雲(ウン)降(クダリ)其雲(ソノクモ)波(ナミ)のごとく天(テン)より黒雲(コクウン)降(クダリ)其雲(ソノクモ)波(ナミ)のごとくなり天上(テンジヤウ)もまた雲(クモ)の中(ナカ)より龍(リウ)の昇(ノボル)ごとく鱶(フカ)の尾(オ)のごとくなるを即(スナハ)ち鮪漁(シビリヤウ)をなすの尾(オ)なり故(ユヘ)に此島(コノシマ)の名(ナ)を鮪(シビ)ヶ岸(ガシマ)と漁父(リヤウシ)等(ラ)ハ八月此島(ハチグワツコノシマ)に来(キタ)りて鮪(シビ)を漁(リヤウ)する事(コト)一月(イチゲツ)ばかりなり

二三百或(アルヒハ)四五百大漁(タイリヤウ)乃(スナハ)ち千(セン)も入(イル)ゆえ

鮪網(シビアミ)之圖

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

鮪澳



国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

十三日此島も悉く拂ひて行くに四時比鯨多く
くれもり鯨船ども數艘梅ヶ艇ばかり矢のごとくに
やうにして近づきぬれバ太山乃ごとき
もち四方を乘廻るにタカツ一名湖水ともいふ
めづらかなるハ鯨也よりタカツを別
鯨を吟ふ魚なり鯨ハ常ニ船を生ず
にくゝ舟中より西の方を見るに山ごとく唐画のやう
十六日早朝鯨多く集る直ニ舟を
走れども猶方此方に鯨乃脊を出すを
夫ゟ舟ハ鯨の集る方へ追て走光平戸島より生月島乃方
の海より鯨ハ群ゝ集ゐるを追
らんとする時ハ多くハ大島乃沖まで一艘の
船より鯨を奥鯨とよび旗を
鯨の方にむけんとする十艘
鯨を追まはる海上巨魚乃大洋海に飛動
とするに波濤山のごとく舟ハ
ともいふ不住る日多く初更ゟ
岩石の間波のまゝ中此所ハ
三崎ハ鯨と切解ハ
て居所ゟ一里ホの方へ

鯨漁之図

鯨ヲ突ント海ヨリ
あらハれ出るを吹分
丈ケ〳〵ニ奥船を
拵氣ヲ吹終ルの尾
を出し沈ミ切ル海
底ヘ入

鯨舟ハ二十艘を出す
其内壱舟つゞる又
網ニ入を出し漸ク
一結ニ成ハ網ニ二艘ゟ
通舟二艘ゟ出ル
三結を出して一結の
六艘網舟ハ大船ゟ
是網を積おろす

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158　ガラス使用

鯨を網〻に浮こと網い繰〻つる浮木を〻〻幕のごとく海中に張〻る網の方一〻〻〻

と止(トド)む余江(漢)此海(ウミ)あり鯨(ゲイ)漁(リヤウ)の起(オモムキ)る所(トコロ)刺(サシ)て勢(イキホヒ)ある大(タイ)なる者(モノ)は水(コノモノ)の傷(イタム)より戦(センゴク)国(ノ)人(ヒト)の如(ゴトク)く海(ウミ)の色(イロ)を変(カヘ)じ血(チ)流(ナガレ)出(イヅ)て朱(シユ)の色(イロ)の如(ゴトク)なる事(コト)数(スウ)十(ジフ)里(リ)の間(アヒダ)なり(鯨の背(セナカ)を)向海(ウナバラ)の大海(オホウミ)の如(ゴトク)なる鯨(ゲイ)の潮(シホ)を噴(フク)事(コト)数(スウ)十(ジフ)丈(ジヤウ)の高(タカ)き事(コト)山(ヤマ)の如(ゴトク)なり(鯨の潮を)初更(ショカウ)より見(ミエ)始(ハジメ)夜(ヨ)半(ナカバ)を過(スギ)て猶(ナホ)絶(タエ)ず(鯨の所為(シワザ)なり)全体(ゼンタイ)は隠(カクス)れて全体(ゼンタイ)と海面(ウミヅラ)の如(ゴトク)なる大(タイ)サ十間(ケン)余(ヨ)の世美(セビ)鯨(クジラ)也(世美は上品也)鯨(クジラ)刺(サシ)又(マタ)勘四郎(カンシロウ)の如(ゴトク)なる者(モノ)数(スウ)時(トキ)を経(ヘ)て始(ハジメ)て死(シス)る者(モノ)半(ナカバ)此(コノ)全体(ゼンタイ)を以(モツ)て両(リヤウ)度(ド)も締(シメ)たり

奥(モリ)猟之図(ヨロツトキ)此製生鉄(ナマカネ)を以(モツ)て作(ツクル)鯨(クジラ)を刺入(サシイル)綱(ツナ)を引(ヒク)なり

半(ナカバ)より曲(カヘル)

四尺五寸

柄トモニ長サ九尺

同ハヤトキ

此両(フタツ)の者(モノ)鯨(クジラ)を殺(シヅ)利(リ)具(グ)なり

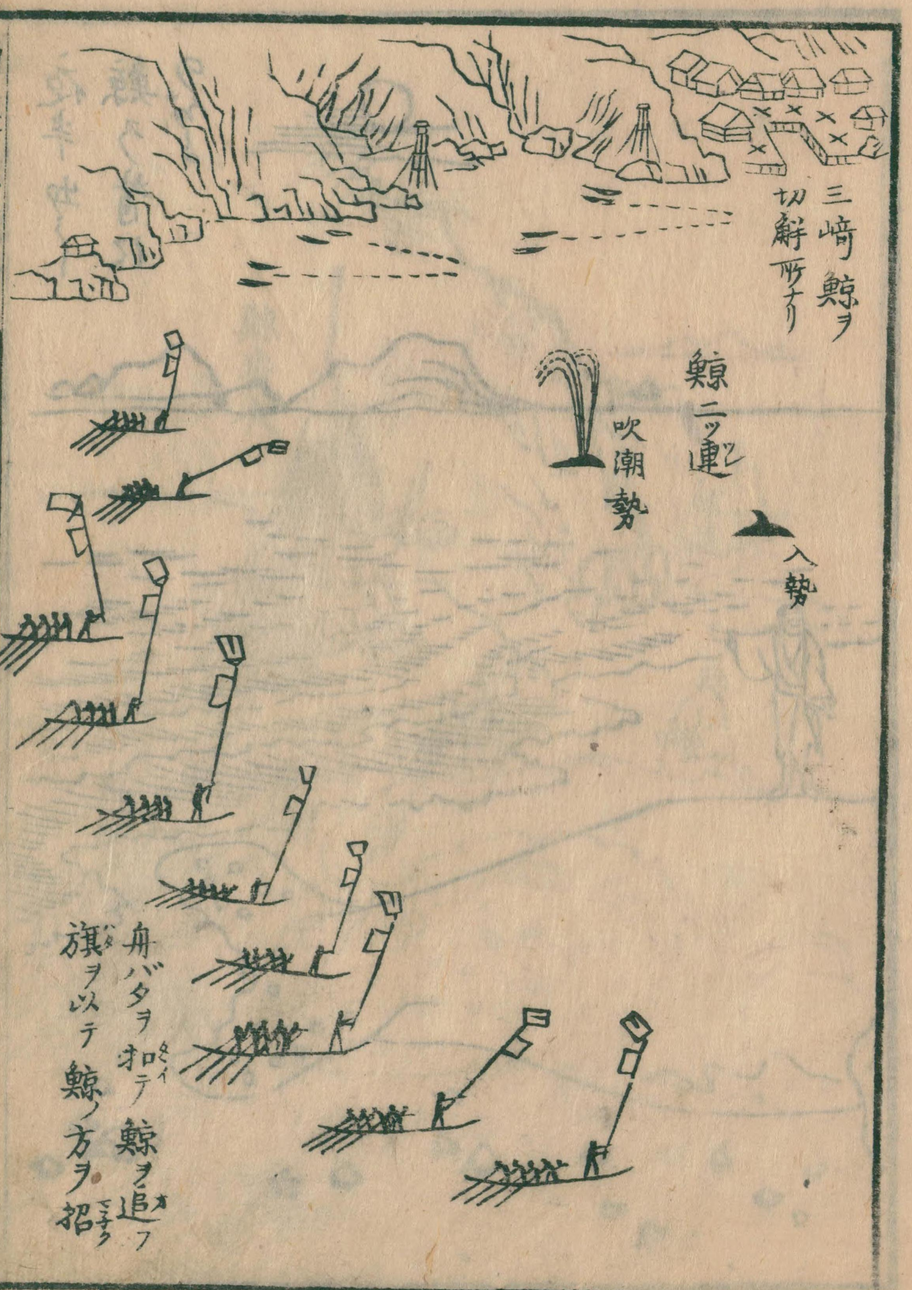
剣(ケン)之図

三尺餘

鯨(クジラ)を殺(シヅ)具(グ)也

柄共ニ一丈三尺余

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

鯨切解圖 此所ヲ三崎ト云

綿大腸ヲ勠キ擷ル

又ヲ舟の奥ニて見

小海老ヲ入るの奥ニて

又鯨鯢ヲ

万力車捲イ 七ヶ所ニ在

大綱ヲ以て捲き

ライ島

ケイ島見ル

肉納屋

腸納屋

骨納屋

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158　ガラス使用

此魚（コノサカナ）ハ所（トルトコロ）の鯨（ハエ）ハ五品（ごしな）ありて
世（よ）に美鯨（よきハエ）上品（じょうしな）味（あじわい）美（よし）大（おおき）なるもの八十間（じっけん）油（あぶら）五百樽（ごひゃくだる）を出（いだ）し
長須鯨（ながすハエ）中品（ちゅうしな）味（あじわい）淡（あっさり）汐吹（しおふき）あり此（これ）同（おなじ）く長（ながき）こと
生（いけ）る鯨（ハエ）中品（ちゅうしな）廿（にじゅう）間（けん）余（よ）油（あぶら）百樽（ひゃくだる）又（また）は百五十樽（ひゃくごじゅうだる）
吼（ほえ）鯨（ハエ）下品（げしな）剛（こわく）強（つよく）して浮（うか）ぶ事（こと）毎（ごと）に潮（しお）を破（やぶ）る
鰯鯨（いわしハエ）下品（げしな）にして浮（うか）ぶ事（こと）稀（まれ）なり鯨（ハエ）の名（な）ありと雖（いえども）
右（みぎ）各（おのおの）気異（カタチことなり）毛（け）異（ことなり）毛（け）を見（み）ざるものハ世（よ）に美（よき）生頭（いけづき）の二品（にしな）を能（よく）の勇（いさみ）
肉骨（にくこつ）を納（おさめ）る

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

長須鯨
ナガス　ザタウ　フコ　大サ九尺
長須生頷腹子

生卵廿美児鯨余
腹る八寸より一尺五寸
總ら緑ヒ卵生ニ
ふくろを生り
交ル
人のごとし

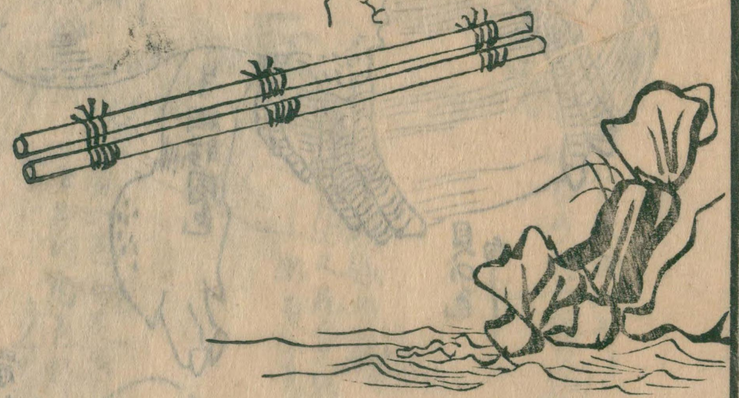
鮪見樓（シビミロウ）

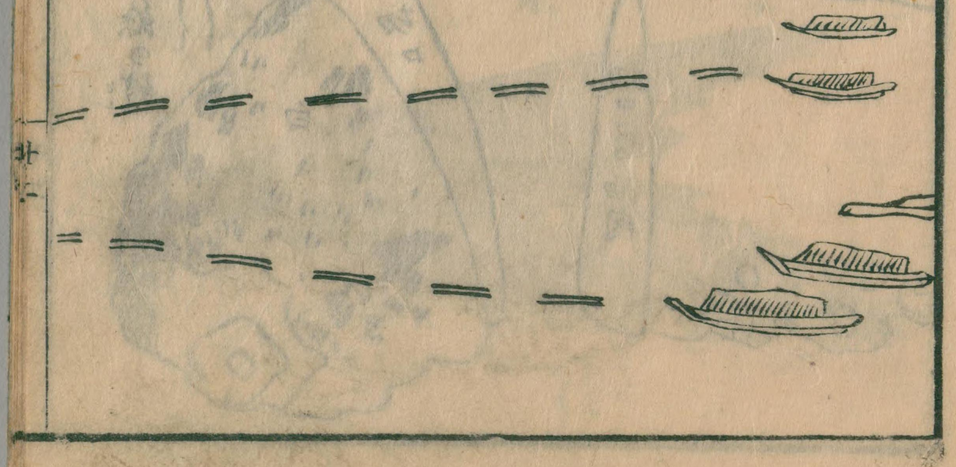
鮪見

鮪網

浮木（ウキキ）

竹二本と





国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

肉納屋之圖

竈十八ニテ油ヲ煎ヲ煮ル庫ノ内ニ儀ス鯨十間許ノ者ノ油二百樽ヲ出ス

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

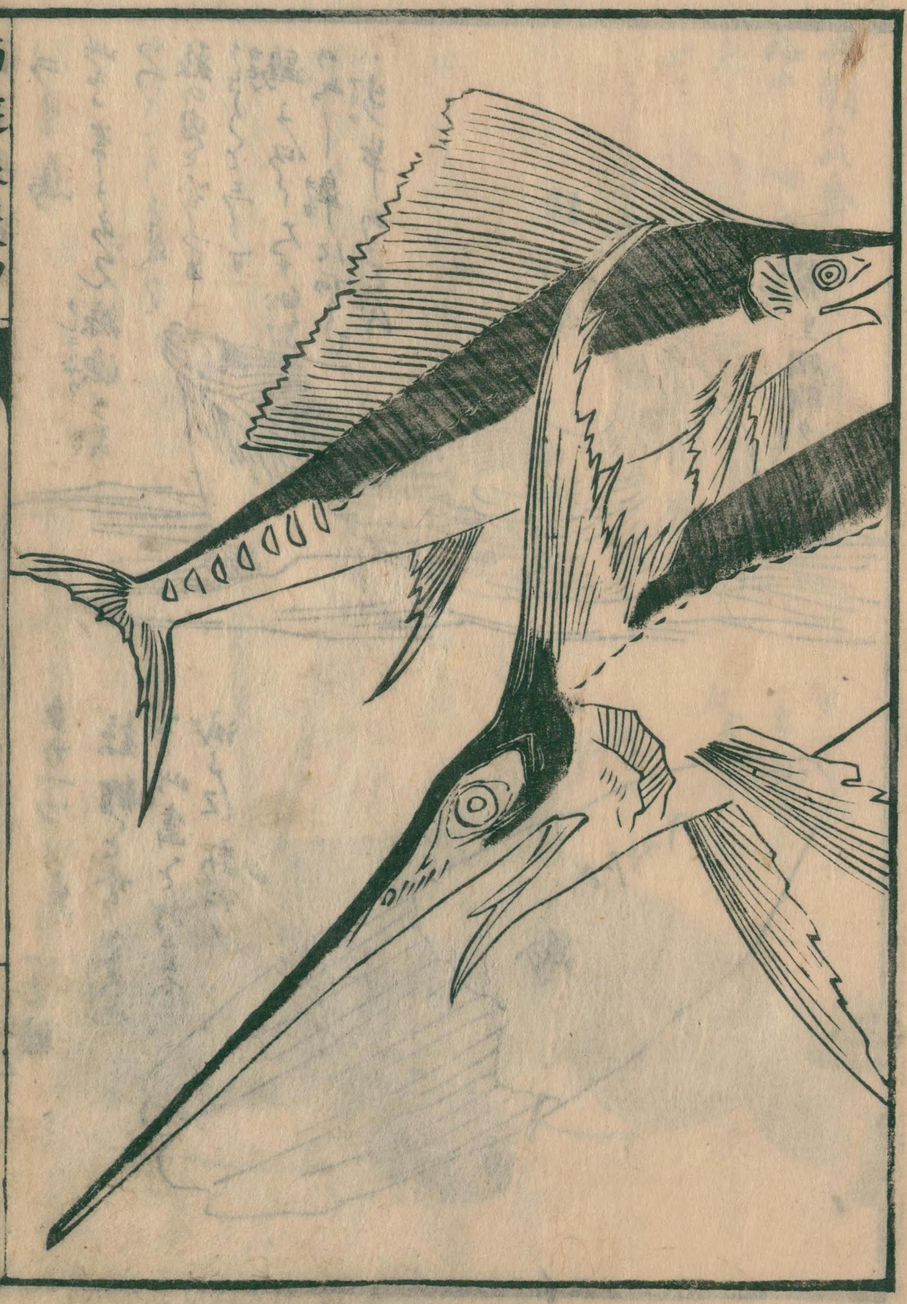
骨納屋之圖 又骸納室あり

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158　ガラス使用

此魚 アミナシトラノヲ又カジキトヲシトモ云 土佐の國にてカシキ通ると舟の底とつゝめ

尾ともに頭月のなしともに一丈余を

此魚ハ生月辺、壱岐、対馬の海所ゟ

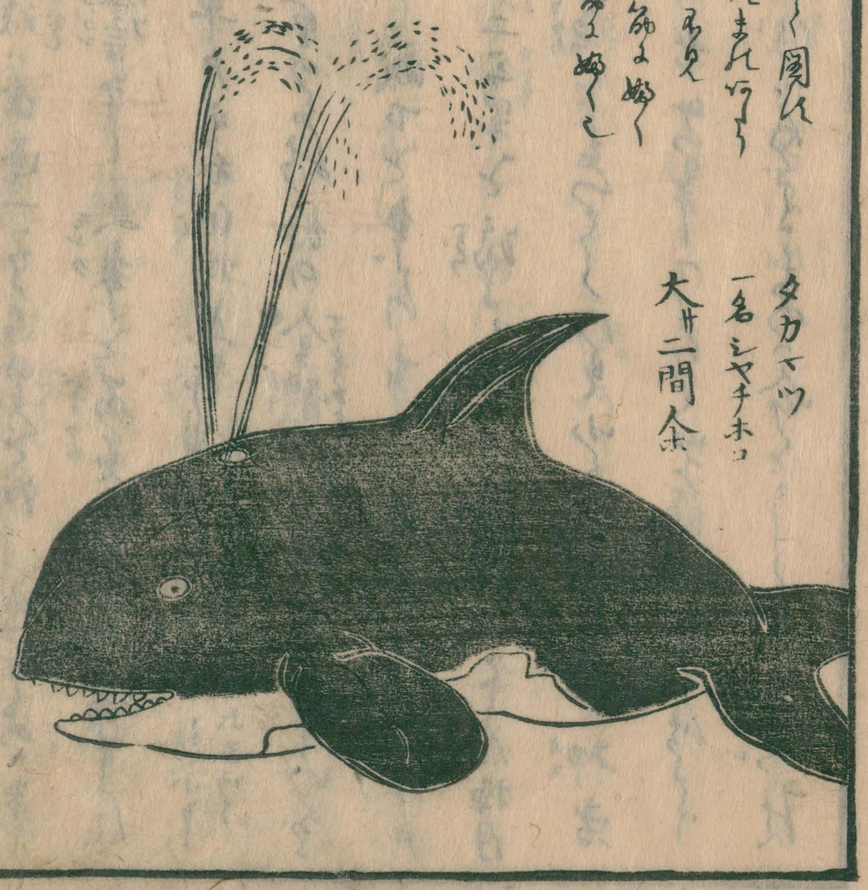


国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

ライ鳥
世ニ希ナル鳥ニテ能ク鰒漁ノ告ヲナスヨシ其肉ヲ喰フニ味鶏ニ似テ大ニ異ナリ

タカセウノ歯 一名鱶
鯨類ト雖モ小ナル也
牙此歯ヲ以テ物ヲ噛ム事能ハズ

此圖ハ此島ノ漁父ニ聞キ図ス海中ニ潮ヲ吹ク事ヲ出ル時ハ遥カヨリ見ユルト云フ全體ヲ見ル世ニ鯨ト同ク潮ヲ二筋ヨリ吹クト云フモ世ニ実ノ処ヲ一筋ト唱フル



タカセウ
一名シヤチホコ
大サ二間余

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用

抑圖ると所の錬炭八余通一ところ不
ところ尺毫毛も虚言なく文章
ところのし五島平戸なお紀州熊野浦岬浦ところ
漁父のお燎火迎里のもの錬の今骸を
おもわれる五島し賊ども事一八九里の峰ところ平戸
も同五六里又八十二三里を隔る
ところ正月初旬尤漁をもっところ
八人刺す一人他の者等一ところ
ず舟覆る水練をもぐるもの命をうしな漁父

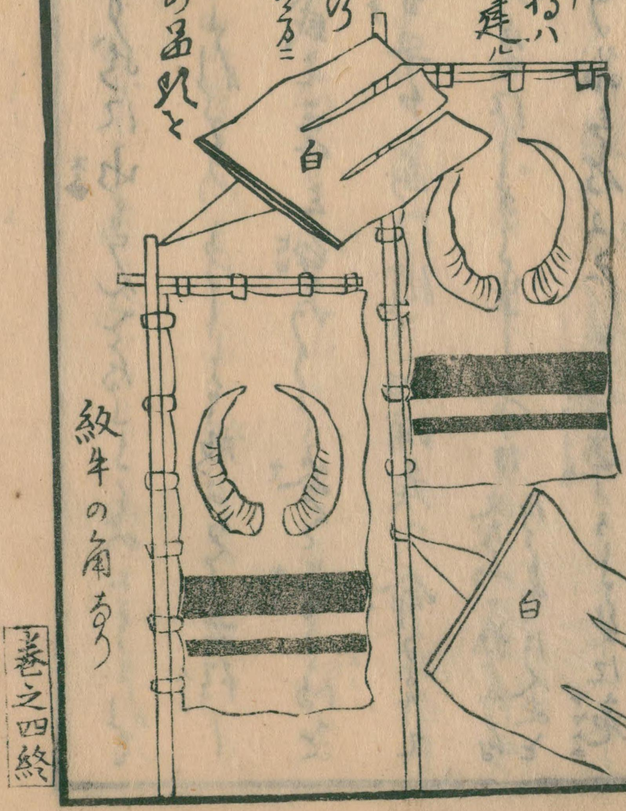
幼ところ海ものに育りて水
ハ時のところ巨魚にところ
ところ虚喉ところの或を手ところ
拔出ところ余晝平戸島に泳ぐ松浦矣の命よりて
生月島益富又ところ宅にまで
出向ところ手負人をところ錬等ところ
ところ処ところ正月
四日此島ところ出船し平戸島のところ
ところ此魚ところ錬剝ところ
元日此島ところ門打ところ雑者ところ
ところ魚ところ白嶽のところ乗船ところ数

特 7
ら
158

又に漸て赭壁(シャヘキ)と鏡の如く油水(アブラミヅ)ゆらぐに
岩壁(ガンヘキ)赤く大赭石(タイシャセキ)のあるを画のごとく見て舟を岸に
乗舟此田助に乞る 夫より舟を出して平戸城下に着(ツク)

鯨舟旗の圖

長須子村(ナガスコモテ)ハトモの方に建(タテ)

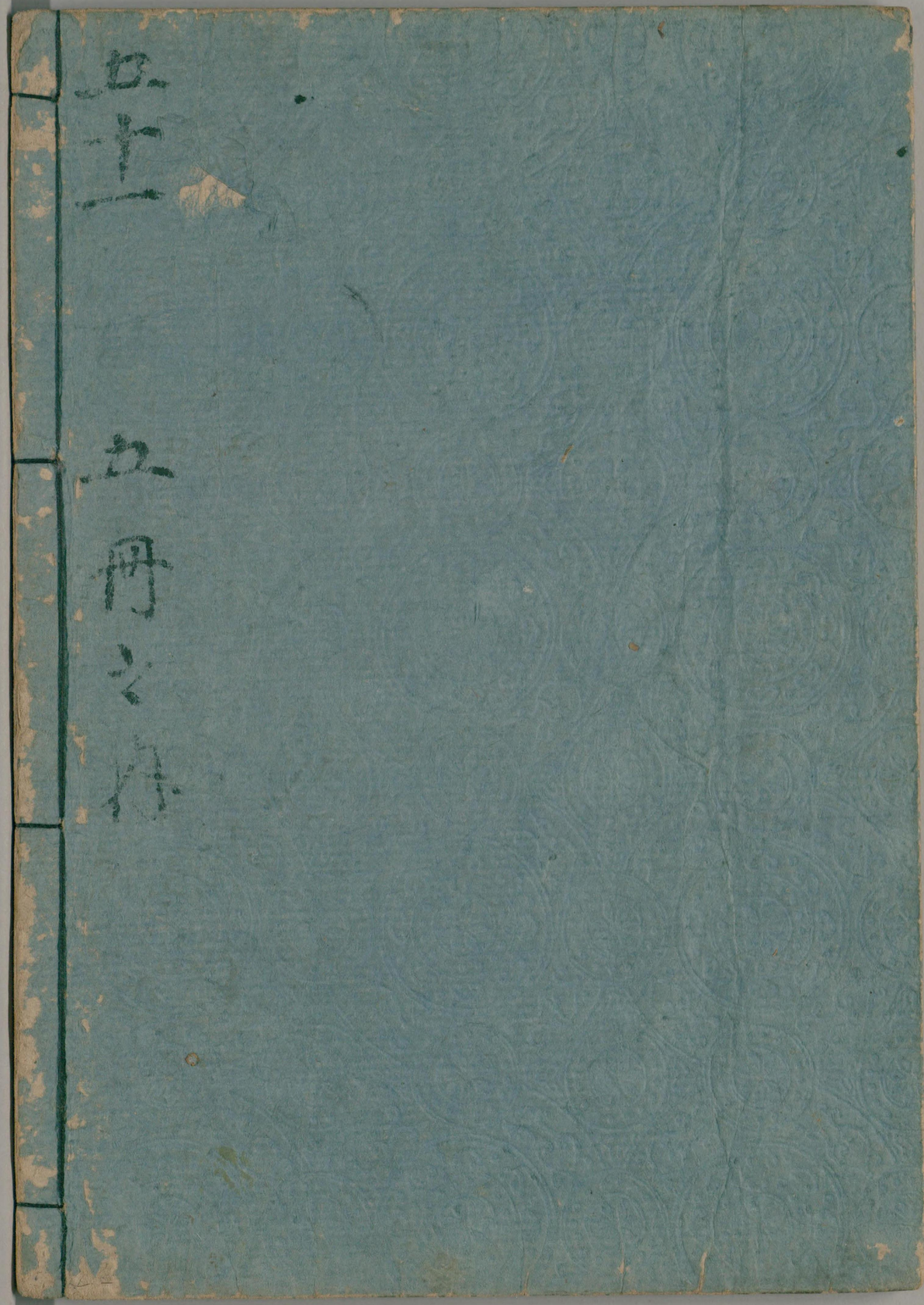


勢美のところハ城下を舟の
表(オモテ)へ建(タテ)る仕頭(サトウ)ハトモの方に
多くてる
皆旗の建ることを錄の留(トメ)と
するなり

紋牛の角あり

巻之四終

国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『西遊旅譚 5巻』 請求記号 特7-158
ガラス使用